



中越地震、地域の助けあいの事例 と復興ボランティア活動について

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



- 中越地震発生(平成16年10月23日 17:56)
地域住民によるお互いの助け合いの事例
 - ・川口町木沢集落
 - ・小千谷市塩谷集落
- 復興ボランティア活動
地域コミュニティとボランティアの協働
 - ・長岡市小国法末集落
 - ・小千谷市塩谷集落
 - ・小千谷市浦柄集落

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





孤立 — 命をつなぐ

官助を待たずして、切り開いた道
(川口町木沢集落)

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



その夜

「みんなにマンマ食わせねばなんないから古い米
でいいから、ある人はもってきて。大きな釜があ
る人は出して。薪ストーブがある人はもってきて。
」

「あとは何も言わなくても、みんな使えそうなモノを
持ち寄ってくれたし、薪を割ったり、水をくんだり、
食事を作ったり、できることをできる範囲でやっ
ていた。」

「震度7 新潟県中越地震を忘れない」松岡達英 著 より

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



川口町木沢

- 集落外につながる全ての道が寸断、完全に孤立
- 2日目住民自身が重機を持ちだし、3日目夜には道を切り開く



生き埋め - 救出

救助を求め13kmの道のり
(小千谷市塩谷集落)

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



小千谷市塩谷

- 51世帯、小学生19人
- 集落外につながる全ての道が寸断、完全に孤立
- 電話、携帯電話、無線すべて通じず

懸命の救出

- 発電機、投光器、チェンソー、ジャッキ持ち寄る
- 次々と救出。しかし残された者も。
- 20:30頃、救助を求め13km離れた市街地へ



塩谷

- 地震で4棟が倒壊し3人の児童の尊い命が失われた
- その後の豪雪でさらに11棟が押しつぶされた
- 51世帯のうち、ムラに戻るのは20世帯に満たない
- 避難勧告が解除されたのは2005年12月26日



交流を復興の柱に

廃校を利用した宿泊施設運営による集落活性化
(長岡市小国法末集落)

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





移動井戸端会議(平成17年6月)



自然の家「やまびこ」を早く復活させたい。集落の元気の源
「我々が自分達で出来ることを頑張れば、道も早く直るのではないか。」

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



地域の宝さがし(まちあるき)



外部の支援者との懇談会



法末自然の家「やまびこ」大清掃



法末自然の家「やまびこ」グランドオープン

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





中越復興市民会議総会



東京武蔵野市との交流(山菜とリツアー)



川口町木沢集落の視察受け入れ



法末たっしゅら会

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



集落の絆を求めて

集落の絆としての古民家保存
(小千谷市塩谷集落)

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





移動井戸端会議(平成17年6月)



地震によって集落の皆が離れ離れになるが、集落の絆を残したい。

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



芒種庵



絆Tシャツ販売



芒種庵修復作業



ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





芒種庵新年会



台湾視察



集落初めての田植え



新潟県との復興懇談会

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



歴史を集落の糧に

朝日山古戦場の復活に向けて
(小千谷市浦柄集落)

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





移動井戸端会議(平成17年12月)



我々の地域には、歴史がある、この歴史を後世まで残したい。

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



朝日山復興春の陣

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議





朝日山復興春の陣

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



朝日山復興春の陣

ひとりひとりの小さな声を復興の大きな流れへ
中越復興市民会議



復興ボランティア活動

- ・できることは自分達で
 - ・自分達の住む地域を自分達で考え、主体的に活動
 - ・市民と行政の本当のパートナーシップ
(中山間地、高齢化、地域福祉、まちづくり、協働)
- ・復興は、個人・地域の自己の再認識、多様性を認め合うことから。
 - ・復興の主体は地域住民
 - ・自己を再認識させてくれるのは、外部の人達
- ・課題は、災害が起きてから出てきたものではなく、平時からの地域の課題である。
 - ・中越では、災害によって気づかされた。
 - ・どの地域でもある課題・いつでも取り組める課題
- ・日頃から地域づくり、まちおこしを行っていた地域は災害に強い。